

コホート研究プラットフォームを活用した高齢者難治性疾患予防研究

The Preventives study of critical diseases in elderly through the application of the cohort framework

生体試料アーカイブ(島根大学バイオバンク)確立に向けての研究

A study on establishment of a tissue bank in Shimane University

グループ紹介

研究代表者：丸山 理留敬(医学部・教授)
 原田 祐治(医学部・准教授), 田島 義証(医学部・教授),
 鈴宮 淳司(医学部附属病院・教授), 森山 一郎(医学部附属病院・助教)
 竹谷 健(医学部附属病院・講師), 並河 徹(医学部・教授)
 三島 清司(医学部附属病院・技師長)

Leader : Riruke Maruyama (Professor, Faculty of Medicine)
 Yuji Harada (Associate professor, University Hospital), Yoshitsugu Tajima (Professor, Faculty of Medicine)
 Junji Suzumiya (Professor, University Hospital), Ichiro Moriyama (Assistant professor, University Hospital),
 Ken Taketani (Associate professor, University Hospital), Toru Nabika (Professor, Faculty of Medicine)
 Seiji Mishima (Chief Medical Technologist, University Hospital)

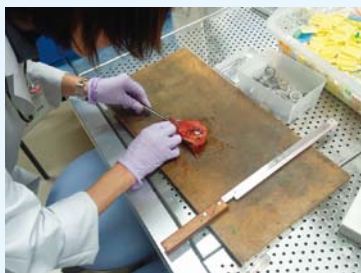
概要

近年の医学研究はヒトゲノムプロジェクトの終了以降、ヒトの臨床試料を用いた網羅的解析(いわゆるオミックス解析)が主流となりつつあります。このためには患者さんの試料(病変部と正常部の組織片)をできるだけ多く蓄積しておく必要があります。この研究は全国の大学に先駆けて、その蓄積(いわゆるバイオバンク)を島根大学で確立しようとするものです。

A cyclopedic analysis using human clinical data, the so called Omics Study, has recently been a mainstream of medical science in this post-genomic era. It is mandatory to have an archive of human samples from the affected and normal tissues (tissue bank or biobank) to get good results in omics studies. We are now on our way to establish "Shimane University Tissue Bank" to get ahead of other institutes in the field of medical research in Japan.

特色 研究成果 今後の展望

世界的に見て日本ではバイオバンクの確立が遅れています。特に大学ではほとんどないといっても過言ではありません。その中で、島根大学医学部附属病院では、手術で摘出された多くの臓器が、固定されない新鮮な状態で病理部に運ばれるという、日本では稀なシステムが約30年前から確立されています。これを生かして我々は平成24年度からバイオバンク設立に着手しています。現在はまだパイロットスタディですが、平成25年末で221例が集積されています。問題点の洗い出しがほぼ終わりましたので、これから本格的なバンク設立に向かう予定です。また、将来的には県内の大規模病院と連携して、「島根バイオバンク」へと発展させたいと考えています。



試料採取



試料の急速冷凍



チューブに保存された試料

試料番号	ID	患者名	凍結時間	臨床診断	臓器名	病理診断	採取日	病理番号
11	13:15	胃癌	胃	腺癌	〇月〇日	...
12	22:45	SPN	膵臓	Solid-pseudo-papillary neoplasm	〇月〇日	...
13	16:00	直腸癌	直腸	腺癌	〇月〇日	...
14	14:00	S状結腸癌	S状結腸	腺癌	〇月〇日	...

患者さんデータの一部



検体保存用冷凍庫